

(c)スタディツアー 「蒼い地球を未来につなぐ」ゼミ
Bコース

生徒：27名

概要：ゼミに所属する生徒各自のテーマに合わせて目的地を設定し、環境研究やリサイクル事業の実例を確かめたり、地熱発電の活用事例をフィールドワークした。

第1日目 ①

訪問先：八幡製鉄所展望所

目的：明治日本の産業革命遺産である八幡製鉄所を見学し、日本のものづくりの歴史について学ぶ

活動内容：北九州市役所の方に案内して頂き、八幡製鉄所を見学した

成果：【生徒の振り返り】八幡製鉄所の第一高炉に、1901と書いてあるのをバスで見て本当にその時代から今ちゃんと存在していることに感動した。展望所から見える旧本事務所や貨物列車も実際に生で見れて昔から変わらず動き続けていることを実感できて面白かった。

第1日目 ②

訪問先：北九州市エコタウン

目的：ものづくりのまちである北九州市の、資源循環型社会を目指し様々なモノのリサイクルや実証研究への取り組みについて学ぶ

活動内容：エコタウンの職員の方からエコタウンの取り組みについての説明を聞き、自動車のリサイクル工場、風力発電の見学を行った。

成果：【生徒の振り返り】実際に公害が酷かったところについて触れてとても勉強になりました。自動車をリサイクルするなんて初めて聞いたし、実際にバラバラにしているところを見た時はとても驚きました。ですが、みんなが驚くようなものでも、もう要らないものでも、それに目をつけ率先して行動する北九州エコタウンのおかげで新しいやり方が発掘されていると思います。今の状況に応じて、積極的にエコを考えていくことが大事だと思う。

第2日目 ①

訪問先：うみたまご

目的：様々な海の生き物を見学し、生物多様性やいのちの大切さについて考える。

活動内容：うみたまご館内を見学した。

成果：【生徒の振り返り】うみたまごでは沢山の海洋生物に触れることができとても楽しかったです。あれほどの水の量をどうやって管理してるのか？や飼育されている動物たちにはどの位ストレスがかかっているのか、彼らにとって、野生で暮らすのと飼育されるのはどっちがいいのかなぁなどと、沢山疑問も持てました。

第2日目 ②

訪問先：龍巻地獄 血の池地獄

目的：間欠泉である龍巻地獄と化学反応をおこした酸化鉄、酸化マグネシウムによって泥が赤くなっている血の池地獄を見学し、地球のエネルギーの大きさや自然現象について考える。

活動内容：龍巻地獄と血の池地獄でのフィールドワークを行った。

成果：【生徒の振り返り】人力ではないのに、地面から強い勢いで100℃程の温泉が長時間吹きでているのを見て地球のエネルギーの凄さを垣間見ることができた。血の池地獄では、温泉が赤色になっているのは面白いと思った。血の池地獄の粘土は傷を癒す効果などもあり、温泉などで、よく謳われている疲労回復などの肩書きをあまり信じていなかった私に、温泉も、もしかしたら、体に良い効果があるのかもと思わせてくれた。

第2日目 ③

訪問先：八丁原発電所

目的：日本で1番大きい地熱発電所を見学し、自然のエネルギーを利用した発電方法について学ぶ。

活動内容：九州電力の方に案内して頂き、発電の仕組みや実際の発電所の様子を見学した。

成果：【生徒の振り返り】まず着いてびっくりしたことは周りが雪だらけの中に地熱発電所があったことです。1号機と2号機があり、合計11万キロワットもの電気が発電されていることをきいて初めて知りました。石油より燃料が節約されることや天候や昼夜を関係なく発電できることを聞き、もっと地熱発電所が増えればいいなと思いました。

A コース

概要：ゼミに所属する生徒各自のテーマに合わせて目的地を設定し、現代に継承されている遺跡・建築や出土品・文化財などの実例を確かめたり、文化財の活用事例をフィールドワークした。

第1日目 ① 北九州の文化遺産

訪問先：門司港エリア

目的：明治の産業革命で開発された門司港を中心としたエリアを散策し、文化財の現代での活用例について検証する。

活動内容：門司港及びJR門司港駅舎の周辺でフィールドワークを行なった

成果：【生徒の振り返り】昔ながらの情景と町との共存、海とレトロさを出した街づくりが勉強になった。建物や人、街、駅の雰囲気までもが昔のままなのでタイムスリップしたみたいだった。街一丸となって門司港という場所をPRしているのがわかった。ひとつ一つのものを丁寧に誰にでもわかりやすいように展示してあった。



第1日目 ② 北九州の文化遺産

訪問先：小倉城

目的：北九州の中心的な城郭建築である小倉城の見学を通して、中近世の小倉の歴史に触れるとともに、城郭建築の構造や現代での活用例について検証する。

活動内容：小倉城及び城内の博物館を見学した。

成果：【生徒の振り返り】

都市の只中にありながらもその形を崩さずに、かつ中は歴史を学べる施設として形を変え、歴史を外からも中からも感じさせる場所だった 隣接する神社も祭りなどの歴史があって時間があればもっと見たかったと思う。

第2日目 ① 文化財と建築・信仰のあり方

訪問先：竈門神社・太宰府天満宮

目的：信仰の場所として両神社の現代のあり方を確認し、社殿建築の構造についても確認する。

活動内容：両神社の境内でのフィールドワークを行なった。

成果：【生徒の振り返り】

鬼滅の刃のブームにより、意図は違えど人足が急増した竈門神社、年中参拝者でにぎわう天満宮総本山太宰府天満宮、どちらも様々なアプローチで人足を増やした神社だ。私の探究テーマである「身近の神話」とは少し違うかもしれないが、あそこにいる人たちには、ただ聖地だから、縁起がいいからというだけでなく、その中に在る神様についてももっと知ってもらうにはどうすればいいだろうかと思った

第2日目 ② 文化財と建築・信仰のあり方

訪問先：九州国立博物館・福岡市立博物館

目的：文化財の保存方法と活用例について検証する。

活動内容：博物館の見学を通して文化財の保存・展示・活用について確認した。

成果：【生徒の振り返り】

国立博物館はとにかく大きくて回りきれなかったが源氏物語を描いた嫁入り道具が綺麗だった。展示の仕方もそれぞれのテーマに沿って見やすかった。また、体験コーナーなども先人の知恵に関するヒントになると思った



第2日目 ③ 文化財と建築・信仰のあり方

訪問先：吉野ヶ里遺跡

目的：大規模な屋外遺跡の保存方法及び現代での活用例について検証する。

活動内容：吉野ヶ里歴史公園においてガイドの支援を受けながら、屋外遺跡の保存・活用についてフィールドワークを行なった。

成果：【生徒の振り返り】

そのまんまタイムスリップしたみたいなきもちだった。やっぱり知識としてあるのと実際に体験したり見たりしたのでは迫力や感じ方が全然違うなと思った。例えば竪穴式住居に入った時中は外より全然暖かいんだなって言うことがわかったし思ったより広いなとか言うことも多分実際に入ってみないと分からない事だったからそういう点についてこれからの探究にも活かしていきたいと思った。



第3日目 ① 遺産の保存と活用

訪問先：三池炭鉱宮原坑

目的：世界遺産の現代での活用例について検証する。

活動内容：大牟田市立駛馬小学校6年生による現地ガイドを受けながら、地域単位での遺産の活用について知った。

成果：【生徒の振り返り】

小学生のみなさんのガイドに感動した。ボランティア活動が起こったのもすごいことなのに、続けられてまた下の学年やこれから小学生になる子たちにも受け継がれていく未来があるのがすごい。遺跡のことをガイドするにあたって知るだけではなく自ら理解して説明、私がした質問にもちゃんとわかるまで答えてくれた。あと答えを出すのも難しい話題でも、一緒に考えてくれたのが印象的だった。クイズの作問もすごかった。ただ案内ボランティアを受け継いで仕事をこなすだけでは、ここまではできないだろうという感じだった。ボランティアガイドは継承の手段として大いにアリ。



第3日目 ② 遺産の保存と活用

訪問先：熊本城及びその城下区域

目的：自然災害の被害にあった史跡を見学し、復興の様子とともに熊本城とその城下区域の歴史を知る。

活動内容：2グループに分かれて現地ガイドの説明を聞きながら史跡の復興状況を視察し、熊本城内の博物館を見学した。また、熊本城下にあたる上通り・下通り商店街でフィールドワークを行なった。

成果：【生徒の振り返り】

熊本城が震災で崩れているとは知っていたけれど、結構な被害で驚いた。本来あるはずの門や塀がほとんどなくて震災の恐ろしさを知った。夜だったから、観光客の被害はなかったが地元の方々が避難するのに困難で犠牲になられた方もいたというお話を聞いてとても複雑な気持ちになった。現代の技術であるAIと、私たち人間の持っている技術を組み合わせて復元を行っているところが興味深い。

